
e-PBL

～educational-problem based learning～

第1章 プロジェクトの概要など

1. プロジェクトの名称、目的など

(1) 名称

e-PBL

～educational-problem based learning～

(2) 目的

将来教員になることを目指す教育大生の私たち一人一人が教育に対する理解を深めることが、その教育を受ける子どもたちの可能性を広げることにつながる、という信念のもと、親しみやすい映画という題材を用いることで、一人でも多くの学生に対して、“新しい”教育について考えるきっかけをつくることを目的にしている。

(3) 上映作品

『Most Likely to Succeed』

アメリカでの教育活動が世界の技術革新によってどのように変遷してきたかをまとめたドキュメンタリー映画。特にカリフォルニア州サンディエゴにある High Tech High という革新的な教育を行う公立学校での、生徒や保護者、教員の様子がクローズアップして描かれている。

2. 代表者および構成員

・代表者

秋田真利亜 教育学専攻 2回生

・構成員

宮川友花 教育学専攻 2回生

達脇萌 教育学専攻 1回生

3. 助言教員

神代健彦先生 教育学科

4. 経費支出

(広報) チラシ 4086 円

ポケットティッシュ 9240 円

(印刷費) 650 円

(謝金) 11400 円*2人=22800 円

(講師交通費) 27080 円

第2章 内容や実施経過など

1. 講演の依頼 (5月)

(1) 柳大地様

映画上映の開催を迷っていたところ、新聞記事で SNS の力で、教員から議員に当選された柳議員の存在を認知させていただき、ご連絡を差し上げたところ、快く広報のノウハウを教えていただき、京都教育大学まで講演会として足を運んでいただけることになった。ここで、今年度は、上映会にゲストをお呼びすることが決定した。

(2) 芦田加奈様

柳様にお声掛けした際、映画の題材になった学校での指導経験をお持ちの芦田様を紹介いただき、私たちの想いに共感いただいた。芦田様もこの段階で、京都教育大学にお越しいただくことが決定した。これからの方針も同時に話し合い、どのような形にしていくかの打ち合わせも行う。

2. メンバー勧誘・方針決定 (5月)

(1) メンバー勧誘

寮、専攻、他 e-project@kyokyo 団体での勧誘

(2) 方針決定

今回は、昨年度の年一度だけの開催によって集客がかなわなかった結果を踏まえ、以下の方針をとることを決定

- お金がかからないような SNS の発信
- 学内生徒への一斉送信メール
- 授業内の宣伝を教授にお願いする。
- 費用は掛かるが、直接学生の顔を見て、手渡しでティッシュを配布
- 上映会自体の回数を増やし、より多く

の人に足を運んでもらう機会を増やす

3. 第一回上映会

(1) 日時

5月25日 木曜日

(2) 場所

A1 講義室

(3) タイムテーブル

16:30 オープニング

16:33 上映開始 (早回し)

17:25 上映終了・感想記入

17:30 上映会終了

(4) 活動内容

長時間の開催はハードルが高いと判断し、今回は短縮させて上映した。また、感想記入紙を用意し、ここに記入をお願いした。

(5) 広報

SNS、口コミ、学内メール

4. 第二回上映会

(1) 日時

6月10日 土曜日

(2) 場所

C2 講義室

(3) タイムテーブル

14:00 上映会開始

14:05 上映開始

16:00 上映終了・感想記入

16:05 上映会終了

(4) 活動内容

土曜日の開催ということもあり、時間的余裕があったため、映画はフルで上映。感想記入は第一回と同様。

(5) 広報

SNSでの宣伝、口コミ (直前まで外部公開の版權を確認していたため、学内メールの依頼は保留)

5. 7月19日開催予定上映会 (中止) 広報

(1) チラシ

・大講義室での授業時に配布

・専攻内で配布

(2) ポケットティッシュ

・学生大会会場前での配布

・食堂前配布

(当日は参加者が集まらず中止)

6. 第三回上映会

(1) 日時

10月27日 金曜日

(2) 場所

シアタールーム

(3) タイムテーブル

18:00 上映会開始・オープニング

18:05 上映開始

19:30 上映終了・トークセッション開始

19:57 トークセッション終了

20:00 上映会終了

(4) 活動内容

柳様と芦田様をお招きし、フルで映画を上映したのちにトークセッションを実施。感想は googleform にて収集。

(5) 広報

SNSでの宣伝、口コミ、学内メール

7. 立命館宇治高校学校見学

(1) 実施概要

11月10日

運営メンバー2人で、立命館宇治高校のPBL実践授業を見学。

(2) 活動内容

● 探究活動の授業

IM コース (留学コース) 3年生

複数のグループでの探究活動

概要・進捗。展望等インタビュー

IG コース (スポーツ等特色コース)

個人探究またはグループ探究

ポスターセッション

● 英語の授業

IM コース 1年生

授業見学

8. 第三回上映会トークセッション動画編集・公開

トークセッションを録画したものに字幕を付け、youtube で公開

9. SNS での広報 (通年)

(1) 上映会の宣伝

上映会の直前期には、日時場所等を宣伝。

(2) 教育課題まとめ

注目される教育課題について、簡単にまとめ投稿し、関心を集める。

第3章 結果や成果など

1. 第一回上映会

(1) 集客数

3人 (学内メール: 3人)

(2) 集約した感想

- 私が今まで受けてきた学校教育は、今回の動画で紹介されていた学校とは全く異なったもので、ただ知識だけを詰め込む教育だったが、今現在その知識が身についているかと考えるとそうでもないと感じた。ただ、この教育が広く受け入れられるにはその教育を受けた後の見通しが見えることが重要だと思っていて、今の大学入試のやり方が変わらなければ、その前段階にある教育のやり方も変わっていかないのではないかと感じた。
- ソフトスキルと言われる批判的思考、自信、コミュニケーション能力は、現在ではとても重要に思われているが、明文化はされず、相好的でしかない。しかし、**High tech High** では それらを延ばすために一から教育で考え直した事例だと思う。基礎知識が無駄というのは、安直。理論と実践、演繹で帰結。
- 確かに学校で学んだ知識はほとんどの人が忘れてしまっているのだから、それなら映画の中であったような方法で教育を

して、一生忘れないような体験をした方が、生徒のためになるなと思いました。

2. 第二回上映会

(1) 集客数

1人 (ロコミ)

(2) 集約した感想

- 人間性の大切さを改めて感じた。自分自身は、将来のために基礎を学ぶことは大切だと感じており、テスト重視だったが、この映画を見て、自分自身も自分で考え、何かを達成したいと感じた。

3. 第三回上映会

(1) 集客数

一般4人 (ロコミ: 4人)

学生4人 (SNS: 1人、ロコミ: 3人)

(2) 集約した感想

- 学期の初め、机を並べることもスムーズにできない生徒たち。日本だから出来ない、ということではないのだと思われた。教科書がないこと、テストがないことに不安を感じる親たち。「幸せになって欲しい」という割に、誰にとつての幸せなんだろう。幸せの定義とは。
exhibition に間に合わなかったのを手伝わないところ。「なんだかんだ間に合う」とならない、させない。失敗をさせる。教員側が我慢できない人が多いのでは。(映画)
- **HTH** や日本の尖った学校の実態、なかなかそうもいかない学校現場のお話を伺え、唯一解ではなく選択肢を増やす社会にしたいと感じた。(トークセッション)

未来の幸せは
教育から

e-PBL主催

第3回映画上映会

映画紹介

**米国教育ドキュメンタリー
「Most Likely To Succeed」**

舞台は、魅力的で新しい学習アプローチを追求するサンディエゴのハイ・テック・ハイ。ここでは、生徒たちが、教科書もテストもない、プロジェクトベースの課題に取り組みます。今日の革新的な世界において従来の教育方法の課題は増大しています。私たちが知っている学校、学習をいかに変革するか、どのように生徒たちのスキルを磨くのか、学校や教員の役割とは何か、そして何よりも、生徒たちの幸せにどうつなげていくのか…先の見えない未来を生き抜く力を子どもたちに。私たち全員が教育問題を自問自答として考えさせられる映画です。

タイムテーブル

18:00~19:30
映画鑑賞

19:30~20:00
パネルトーク

教育のプロである柳議員と芦田さん、未来の教員である教育大学生、そして皆さんで次世代教育を語ります。

詳細

日にち：2023年10月27日(金)
場所：京都教育大学シアタールーム
時間：18時00分～
料金：無料
予約：あり（当日参加可）

お問い合わせは
InstagramのDMまで

Instagramアカウント 申し込みフォーム

ゲスト紹介

柳大地
東京府立中央高等学校教員を経て、現在は教育実践者として、教育現場に立ち寄り、SDGで学ぶことの、教員・学校との関係性について発信中。

芦田加奈
ハイ・テック・ハイ教育大学院で、教育実践者として、教育現場に立ち寄り、SDGで学ぶことの、教員・学校との関係性について発信中。



4. 立命館宇治高校見学

(1) 所見

- 探究活動を行う生徒たちの姿は、自立的で、活発に見えた。従来の探究活動よりも、活動の物理的な幅が広く、実際に行ってみる、やってみる感覚を大切に、アポイントや

調整まで生徒が行っていた。これを、教員も最大限にサポートしていた。

- テーマの幅も広く、食品ロス、地方創生、教育格差、海洋プラスチック、ファストファッション、部活動、と様々なジャンルについて、探究が行われる。自主的な探究活動に入る前に事前探究に深く取り組むことを徹底している。
- 数人のグループは、趣向別で教員側が組んだもので、うまくいけば続行、方向性が違う場合は、ある程度の分裂を許容
- 学校外の団体とうまく連携し、商品販売をも成功させているチームもあり。

(2) 感想

- 映画とは違い、テーマから生徒に選ばせることは、それぞれの関心に沿った探究になるため、「やりたいこと」を実現できる一方、その進捗や、結果を担保できない。また、リスクも大きくなるため、学校として行っていくのはやはり限界の範囲内になってしまう。
- この取り組みから、将来の進路が決まることも考えられ、能力の向上、経験値の獲得に加え、自分を見つめる時間になっていることも確かだった。
- 週2時間の少ない時間と、教室で、リソースが限られている中、最大限にこれを活かすために、全生徒の動きを把握する、使えそうなコネクションはとっておく、という先生方の努力を感じた。授業時間外、土日等の引率は働き方改革の関係で難しいがゆえに、生徒自身に任せる、という信頼関係が気付けることが、活動の条件になっているように思われた。
- 私立学校だからこその柔軟な時間割や、厳しい受験勉強に取り組む子の少なさ、など、特殊条件の中で、成り立っている学習であることを痛感した。これを公立学校でやろうと思うと、反発は絶えない。そもそも不可能であるように思われた。つまり、すべての子どもに最適な学習を目指した

PBLが、その形態自体、すべての子の教育には受け入れられないものになってしまっている。



分の探究に活かし、より良い教育を目指して、それぞれの使命を全うする。

研究発表会では、PBLの実践への期待の声が多数寄せられた。よって、これをどのように実現できるかについての授業観察を継続していくと同時に、実際に学生がPBLを授業として提供できる場所を作るために何ができるかを模索していきたい。

第4章 まとめと反省、今後の展望など

1. 活動のまとめと反省点

(1) まとめ

通年の上映会の開催で、昨年度よりも多くの方に映画に触れ、新しい教育、現代に必要な教育とは、について考える機会を提供できた。

また、今年度は、現職の先生方にもご参加いただき、高校への見学も実現できた。大学の枠を超えて、交流を進めることができたのは、大きな利点だったといえる。

(2) 反省点

今年度も実施メンバーが集まらなかったうえ、多忙であり、余裕を持った活動が難しかった。広告も打ち出すのみで終わってしまい、これを効果的に参加につなげることができなかった。

団体での活動は、計画と、前もった報連相が大切だと改めて感じる。

また、昨年度提案された、実際にPBLを行ってみるとい活動の時間をとることは難しかった。

2. 今後の活動

今後は、今回の活動で得た貴重な意見について、他の e-Project@kyokyo 団体と交流し、より良い教育について議論する場を設けたい。

また、広がった視野をそれぞれのメンバーが自